

志摩半島の英虞湾、的矢湾の渡船

2020.10.16 池田良穂

志摩半島の海には、これまで会っていない、ちょっと気になる渡船がありました。それが三重の県道船と呼ばれる県営の渡船で、的矢湾周辺の県道 750 号線の一部とのこと。この渡船は、複雑な的矢湾内の岬の間の狭い海を渡る役割と、的矢湾の真ん中に浮かぶ渡鹿野島(わたかのしま)への渡し船の役割もはたしています。この渡鹿野島には温泉ホテルも多く、年間 3 万人余りの観光客がいるのに、時刻表のある定期船が見当たりません。これも不思議でした。

というわけで、晴れた日に志摩半島の的矢湾と英虞湾にでかけました。いずれもリアス式の海で、驚くほど複雑な海岸線をしており、的矢湾の真ん中にはハート形の渡鹿野島が、英虞湾の真ん中には真崎島という有人島が浮かんでいます。

志摩までは、堺の自宅から車で 3 時間半ほどでした。現役時代には、海洋開発関連の研究もしていたので、ここで行われていた波浪発電装置の実験を 2 回ほど見学に出かけましたが、今ではどのあたりの場所だったのかも定かな記憶はありません。

県道船「まどや丸」



県道船「まどや丸」は、無料の県営渡船で、1 日 6 便のスケジュール表が待合室に張ってありましたが、お客さんがなければ動かないようで、私が到着した後の 13 時 20 分の定期便は結局動きませんでした。

写真は三ヶ所の船着き場に係船される状況で、下の写真の右側の陸地が渡鹿野島、左の陸地が的矢地区の集落です。この 2 ヶ所に、乗客を渡す役割を担っています。

渡鹿野島

渡鹿野島に渡る渡船場は、「渡鹿野島対岸渡船場」というところにあり、バス停の前に小さな渡船待合所がありました。運航会社の名も、時刻表もなく、6 時 50 分から 22 時まで渡船があることが書かれていて、待合室の中にベルがあり、これを渡りたい人はベルを押して船を呼ぶようになっていました。まわりには、島のホテルの駐車場しかない辺鄙な場所でした。

いろいろと調査してみると、島には 3 つの個人渡船業者があり、毎週交代で一般乗客のための渡船を運航している他、各ホテルにチャーターされて宿泊客を運んでいるとのことでした。まさに、オン・デマンドでニーズがある時にいつでも船がでるという体制のようで、200 人余りの住人の島ですが、年間 3 万人以上の観光客があるとのことでした。

私が行った当日は(有)かいげつの「かいげつ 10」が渡船として運航されていました。



渡船場の待合室。対岸に見えるのが渡鹿野島のホテル群。航海時間はわずか 3 分です。



渡鹿野島への渡船「かいげつ 10」。マストに赤旗を掲げているのが、その日の当番の渡船だそうです。



島へのプロパンガスのボンベを積んだ船が出港していきました。



「かいげつ 11」は、ホテルの宿泊客の送迎をしています。



個人運航の「第13、12さくらじま」です。もう一隻の「第11 さくらじま」が、時々ホテルの宿泊客の送迎にでかけていました。



ホテルの宿泊客を送って、島に戻る「第11 さくらじま」。



島の港には、大東観光の2隻の客船が停泊していました。ホームページによると、同社はもう一隻客船を持っているらしいです。



島に停泊していた RORO 型客船 REIWA-2910。車の輸送も可能となっているようです。

英虞湾(あごわん)

英虞湾の航路の起点となるのが賢島ですが、島とはいえ橋でつながれており、近鉄の特急電車が乗り入れています。ここからは英虞湾の遊覧船の他、志摩半島の集落、および湾の中央に浮かぶ真崎島とを結ぶ定期航路が開設されています。

志摩マリンレジャーの定期船



「おくしま」19 総トン、80 人定員、11.4 ノット。



「おおさき」19 総トン、80 人定員、15 ノット。



さきしま(予備船) 19 総トン、70 人定員、15.9 ノット。



英虞湾

あごわん 英虞湾の遊覧船



遊覧船の中では最も大型のエスペランサ。50 分で英虞湾内を一周します。志摩マリンレジャーの運航。この遊覧クルーズに乗船して、「おくしま」「おおさき」の走行中の写真が撮れました。



「賢島 5」賢島遊覧船組合の運航で、英虞湾遊覧に就航しています。



「女神五世」賢島遊覧船組合の運航で、英虞湾遊覧に就航しています。



的矢湾